

経営比較分析表（令和元年度決算）

香川県三豊総合病院企業団 三豊総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	ド透 未 訓 力	救 臨 が 感 へ 災 地 輪
人口 (人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置	
-	46,828	非該当	10 : 1	

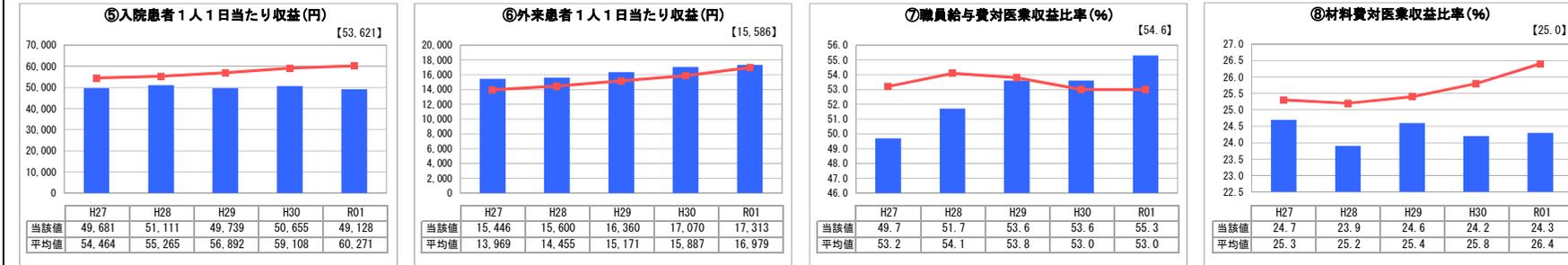
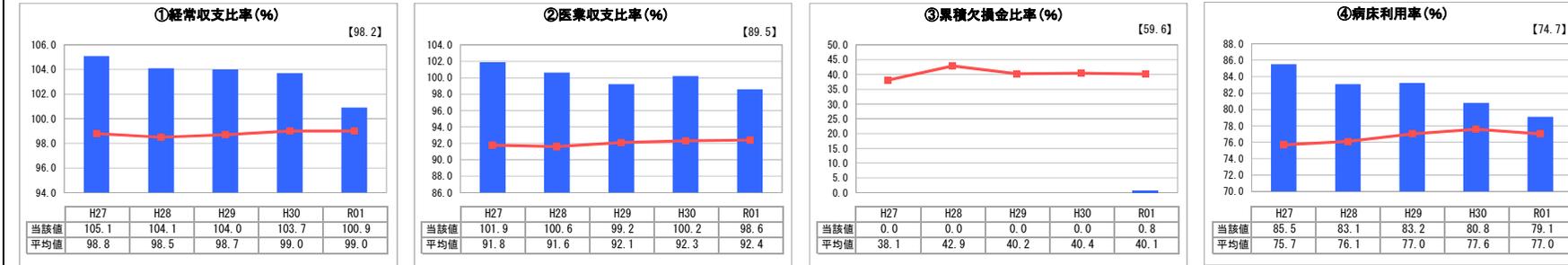
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

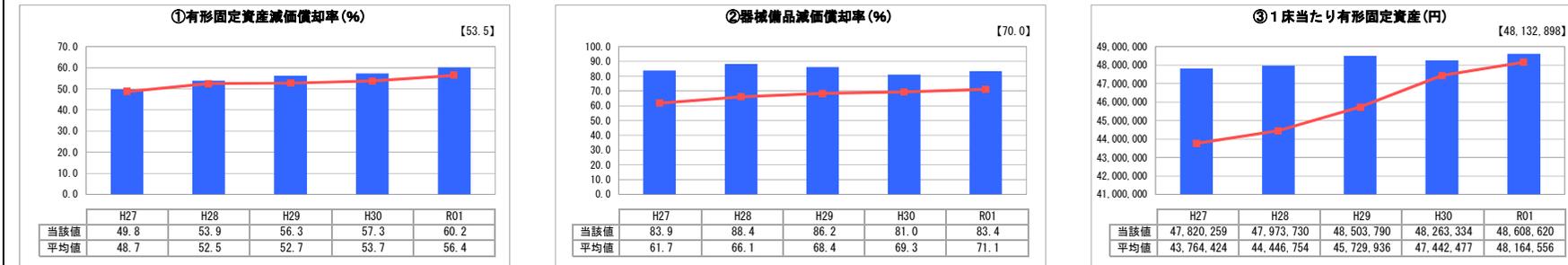
許可病床 (一般)	許可病床 (療養)	許可病床 (結核)
478	-	-
許可病床 (精神)	許可病床 (感染症)	許可病床 (合計)
-	4	482
稼働病床 (一般)	稼働病床 (療養)	稼働病床 (一般+療養)
476	-	476

グラフ凡例	
■	当該病院値 (当該値)
—	類似病院平均値 (平均値)
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組 (直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、西部保健医療圏である三豊市観音寺市における中核病院であり、地域住民へ安心・安全な医療を提供することを使命としており、急性期病院としての救急医療や高度・先進医療の提供、がん診療、手術治療、地域医療支援病院としての地域医療連携の推進などの役割を持つ。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率が低下しているように、患者数は入院・外来とも年々減少しており、収益も同様に減少傾向にある。特に令和2年3月においては新型コロナウイルスの影響が顕著であり患者数・収益が大きく減少した。収益の減少に伴い、経常収支比率も低下している。1人1日当たりの収益については、入院・外来ともに年々増加傾向にあるが、これは国が推進する病院・診療所の機能分が当医療圏においても進んでおり、それにより以前より重症患者の比率が高まっているためと考える。ただし、入院単価は全平均値を下回っているが、これは、当院が所在する地域性によるもので、急性期患者だけでなく回復期・慢性期患者も多数入院されていることに起因する。外来患者1人1日当たり収益は、年々増加傾向にあるが、これは高単価ながら病棟の稼働により材料費の購入が多くなっていることによる影響も大きい。そのほか、職員給与対医業収益比率は、前述のとおり医業収益は年々減少しているが、給与費がほぼ横ばいであるため増加傾向にあり、H30年度以降は類似病院平均値を上回るようになった。また、材料費対医業収益比率は、年々より少し高くなるが、患者単価に収益が減少すると材料費も同様に減少し、類似病院平均値は年々上昇している中、当院は比率を維持できている。

2. 老朽化の状況について

平成19年度に始まった大規模な建物の新築・改修工事(新築整備事業)を平成25年に終えたばかりのため、固定資産全体の償却率は低めである。逆に、器械備品に関しては、令和元年度時点で83.4%である。これは、機械の耐用年数にとらわれず正常に稼働できる間は出来るだけ使用するという当院の考えに起因している。地域中核病院としての重責を担うべく最新及び高度医療機器の更新に努めており、令和元年度は内視鏡透視室に最新型のCアームX線TVシステムを導入した。

全体総括

当院の使命である地域住民へ安心・安全な医療を提供するためには、24時間の救急医療体制の継続、医師をはじめとした医療スタッフの確保、先進・高度医療機器の導入が必要である。そのためには、今後もこれまで同様、健全経営を維持することが必須であり、無駄のない効率的な経営がこれまでに以上に求められる。新型コロナウイルスの影響や人口減少などにより患者数の増加が見込まれない現状、請求漏れの削減や機器・薬品、医療材料等を無駄が出ないように購入を行ない、収益単価の増加に繋げたい。また、公立病院改革プランは前述の事項を盛り込んだ内容で改定できるように取り組んでいる。